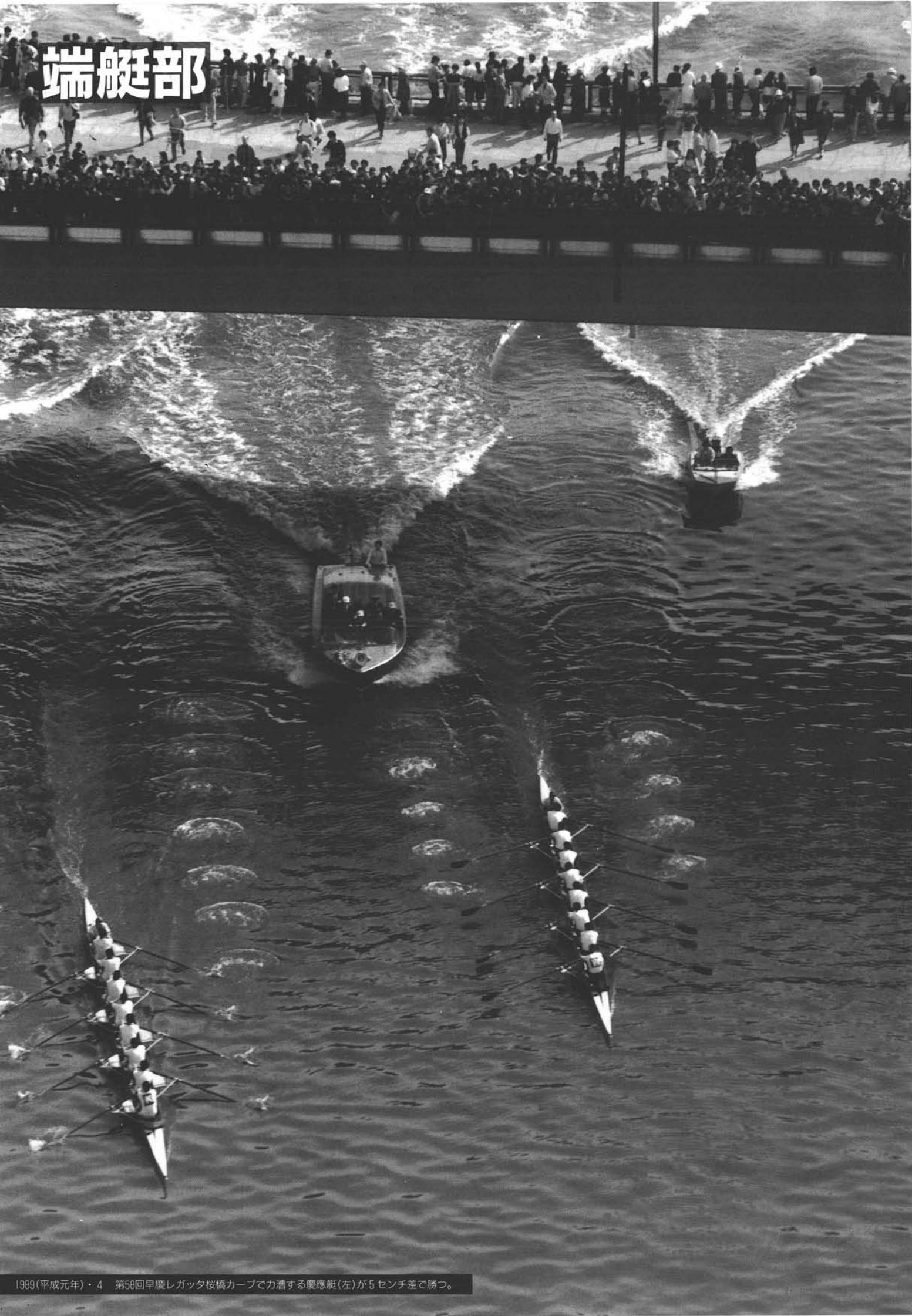
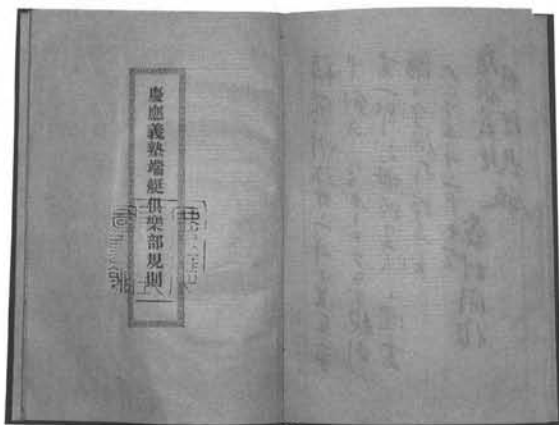


端艇部





1889(明治22年) 端艇部創立と共に定められた、慶應義塾端艇俱樂部規則。



1926(大正15年) 向島で開催された第3回明治神宮競漕大会兼全日本選手権競漕大会の様々。



1932(昭和7年)・8 第10回オリンピック・ロサンゼルス大会へ参加する日本代表クルーに付フオアを派遣。18日間の船旅でのスナップ写真。



1934(昭和9年)・9 瀬田川で行われた第14回全日本選手権で関西代表の京大(右側)を破り、初優勝を飾る。



1952(昭和27年)・7 戦後日本が初めて参加したヘルシンキオリンピックに船手付フオアを派遣。メイラハティボートコースにて撮影。



1953(昭和28年)・秋 日吉に陸上での乗艇練習設備「ローイングタンク」完成。他に例を見ない独創的アイディアである。



1954(昭和29年) ケンブリッジ大学エイトクルーが来日。慶應船庫にて交流を行う。



1956(昭和31年)・8 第34回全日本選手権の決勝リーグで東大、一橋、京大に全勝して優勝。第16回オリンピック・メルボルン大会への派遣が決まる。





1957(昭和32年)・5 隅田川で開催の第26回早慶レガッタで大差のリードをしていた慶大艇が荒天の中、大会初の沈没。試合後のオアズマンシップが話題となり、教科書にも載る。



1957(昭和32年)・8 戸田コースで行われた第35回全日本選手権で大きく水を空けて優勝し2連覇。この翌年も優勝し、ボート史上初の3連覇を達成。



1962(昭和37年)・6 全日本で舵手無フォア及びシングルスカルが優勝し、9月の世界選手権(デンマーク)へ派遣。選抜エイトにも3名が選ばれ、派遣。



1964(昭和39年) 東京オリンピック終了後、11月に開催された全日本で、手前北大を抑え8回目の優勝を飾る。



1970(昭和45年)・8 全日本エイト優勝クルー。ここ4、5年の準優勝のウップンを見事に晴らし6年ぶりの優勝。



1967(昭和42年)・8 北米選手権(オンタリオ湖)に日本代表としてエイトを派遣。



1971(昭和46年)・7 全日本で優勝しヨーロッパ選手権(デンマーク)に派遣されたダブルスカルの日の丸のフレッドが群やか。



1978(昭和53年)・4 隅田川に復活した第48回早慶レガッタ。ここ数年の負けを吹き飛ばす快勝となる。



1989(平成元年)・8・27 全日本選手権で19年ぶり10回目のエイト優勝。この年は端艇部創立100周年の記念すべき年である。逆風でラフコンディションのなか見事なフレッドワークで優勝し、記念の年に華を添えた。



1889・4 芝浦に艇庫を設け、端艇4隻で慶應義塾端艇倶楽部を設立。

1892 体育会の創立と共に端艇部として加盟。当初はレッド倶楽部、大和倶楽部、大学ボート倶楽部の3団体で構成。/11・16 第1回慶應義塾端艇競漕大会(略称:水上運動会)を開催。

1899 3団体を解散し、端艇部として一本化。この頃艇庫は芝浦から隅田川へ移転する。

1905・5・8 第1回早慶対校競漕大会(略称:早慶レガッタ)を隅田川で開催する。

1914 隅田川白鬚橋下流向島に新艇庫竣工。

1920 日本漕艇協会が設立されるが、野球早慶戦不祥事による対外試合禁止のため、翌年の加盟となる。

1923・9 関東大震災により他校の艇庫は大半が焼失したが、慶應艇庫は焼失を免れる。この頃に固定席艇から滑席艇へ移行する。

1930・4 向島艇庫の全面建替工事竣工。中

断していた早慶レガッタが復活する。

1932・8 ロスアンゼルス五輪に舵手付フォアを日本代表として派遣。端艇部が初めてオリンピックに参加。

1934・9 第14回全日本選手権競漕大会(略称:全日本エイト)でエイトが初優勝。

1937 多摩川艇庫用地を購入。向島艇庫を解体移築。

1940 多摩川新艇庫が竣工。幻の東京五輪計画の一環の戸田ボートコース完成。翌年の早慶レガッタから戸田で開催となる。

1944 太平洋戦争激化により公式レース中止。

1945・5 蒲田空襲により多摩川艇庫焼失。

1947・5 戦後初の早慶レガッタを開催。

1948 戦後初のエイト「ボローニャ」進水。

1949・5 戸田に待望の新艇庫が落成する。

1950 早慶レガッタを剣牛レガッタと同距離の6000メートルとし、隅田川で開催。

1951 第29回全日本エイトで2回目の優勝。

1952 ヘルシンキ五輪に舵手付フォアを日本代表として派遣。戦後初の国際試合を経験。

1953 日吉にローイングタンクを設置。

1956 第34回全日本エイト優勝。/11 メルボルン五輪に派遣され日本漕艇界初の準決勝進出を果たす。

1957・5 第26回早慶レガッタで慶大艇沈没。オアズマンシップが教科書にも載る。/8 第35回全日本でエイトが優勝し2連覇を達成。

1958・8 第36回全日本エイトを制しボート史上初の3連覇を達成。付フォア、無フォア、付ペア、スカムも優勝し、慶應義塾創立100周年のこの年に端艇部の黄金時代を築く。

1959 端艇部にカヌー部門を設立。

1960・5 ローマ五輪代表選考会で惜敗。/8 全日本エイト6回目の優勝。

1961 隅田川の汚染と護岸工事で、この年の



1991(平成3年)・4・28 第60回早慶レガッタで早稲田を抑えて力漕する対校エイトクルー。スタート直前で早稲田艇が破損するハプニングがあったが、アメリカ製の新艇が快調に走り大差で優勝する。

カヌー



1965(昭和40年) 1959年にカヌー部門設立。数多くの優勝と海外遠征を経験する。この年全日本K1で10000メートル優勝。



1975(昭和50年) この年のK4種目は全勝。インカレで3回目の総合優勝を飾る。現在学生カヌー界のリーダーとして活躍。

第30回早慶レガッタを最後に戸田に戻る。

1962 第40回全日本でエイトが7回目の優勝。／9 世界選手権に無フォア、スカル、日漕選抜エイト3名を派遣。カヌー部門も欧州カヌー選手権にK2を代表として派遣。

1963 欧州選手権にエイトを、世界カヌー選手権にK1を派遣。

1964 東京五輪の日漕選抜エイトに4名を派遣。／11 全日本でエイト8回目の優勝。

1967・8 北米選手権にエイトを派遣。

1968・8 エイトは全日本兼メキシコ五輪選考会で僅差の惜敗。カヌーは初のインカレ総合優勝。

1970・8 全日本でエイト9回目の優勝。この頃、日漕は小艇主義となる。カヌーは世界選手権にK1を派遣し、インカレも総合優勝。

1971・7 全日本でダブルスカル優勝。／8 欧州選手権にダブルスカルを派遣。カヌーはK1を世界選手権に派遣。

1973 黄金時代を築いた戸田艇庫も老朽化し全面建て替え。／1 新艇庫落成式を挙行。

1975 カヌーは世界選手権にK1を派遣し、インカレでも3回目の総合優勝を果たす。

1976・8 全日本大学選手権で軽量級付フォアとダブルスカルが優勝、総合優勝を飾る。カヌーは国際カヌーレガッタにK1を派遣。

1978 第48回早慶レガッタが17年ぶりに隅田川に復活。カヌー世界選手権にK1を派遣。

1979・10 端艇部創立90周年記念式典を交詢社にて挙行。「90年史」を発行。全日本大学選手権で2回目の総合優勝を果たす。

1981・4 早慶レガッタ第50回記念大会にイギリスより剣牛両エイトを招待する。カヌーは全日本並びにインカレで5種目を制覇。

1982 全日本で付フォアが優勝。エイトでは東大が4連覇を遂げる。

1983 第52回早慶レガッタに豪日交流基金

の援助でメルボルン、シドニー両大学エイトを招待。以降、1年毎の相互遠征が始まる。

1984 ロスアンゼルス五輪に端艇部OBがスカルで出漕する。全日本大学選手権で付フォアが優勝し、ユニバーシアードに派遣。

1985 カヌー世界選手権にK1を派遣。

1986・4 第55回早慶レガッタで史上初の同着レースとなる。カヌーは全日本でK2の10000メートルで1～3位を独占。

1987・4 カリフォルニア大学に招待され、UCLA CREW CLASSICに出漕。カヌーはユニバーシアードにK1を派遣。

1988 ソウル五輪選考会で日漕選抜に敗れ、準優勝で終わる。

1989 端艇部創立100周年を迎える。記念事業として記念式典、記念艇庫募金、100年史編纂を実施。／4 早慶レガッタ、勝利。／8 全日本エイトで19年ぶり10回目の優勝を果たし、記念すべきこの年に花を添える。／11



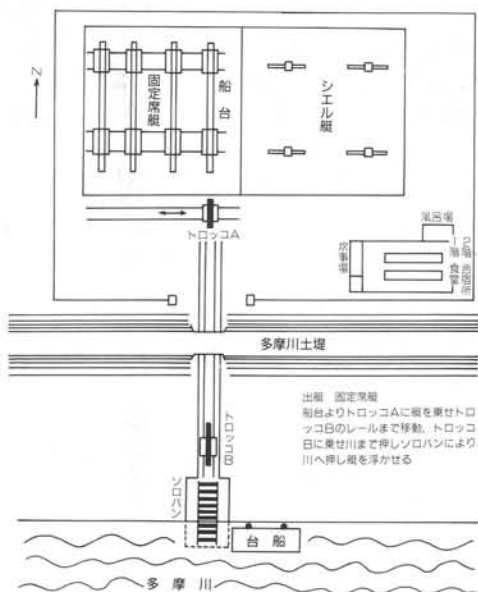
第1の艇庫1893(明治31年)竣工。田町駅裏の芝浦艇庫。2度の火災にあっている。



第2の艇庫。隅田川の支流水神八百松の入江奥。干潮時は出艇不能である。



第3の艇庫1914(大正3年)竣工。隅田川日輪橋下流向島地蔵坂。1930年全面建て替え竣工。



第4の艇庫1940(昭和15年)・5竣工。多摩川蒲田區古市町(今の大田区矢口)。1935年に予科が日吉に移転し、艇庫も多摩川に移転。土手に穴を空ける。1945年に蒲田空襲で焼失



第5の艇庫 1949(昭和24年)・5 竣工。埼玉県北足立郡戸田村。敷地は1940年幻の東京五輪用に購入済。端艇部黄金時代を担う。

艇庫

第6の艇庫1973(昭和48年)・1竣工。以前の艇庫を全面建て替え。埼玉県戸田市戸田公園。端艇部創立80周年記念事業。



第7の艇庫1992(平成4年)竣工予定。現艇庫を全面建て替えとする。端艇部創立100周年記念事業。

女子



1953(昭和28年) 全日本で女子シングルスカル優勝を果たし、女子部門発足。1956年の早慶レガッタから女子レースが始まる。



1960(昭和35年)～1963(昭和38年) 大学女子選手権に4連覇を達成する最盛期。その後、部員難に苦しみながらもスカルやシェルフォアで健闘する。

帝国ホテルにて塾長をはじめ多数のご来賓を迎え、盛大な記念式典を挙行。カヌーアジア選手権にK2を派遣。

1990・7 「艇庫建設委員会」発足。10 ハドソンレガッタに招待され遠征、5位となる。カヌーはインカレで部門優勝。

1991・10 ハドソンレガッタに遠征。12 艇庫の解体工事始まる。平成5年初竣工予定。

【全日本エイト優勝記録】

1934	第14回全日本	優勝	(初優勝)
1951	第29回全日本	優勝	(2回目)
1956	第34回全日本	優勝	(3回目)
1957	第35回全日本	優勝	(4回目)
1958	第36回全日本	優勝	(5回目)
1960	第38回全日本	優勝	(6回目)
1962	第40回全日本	優勝	(7回目)
1964	第42回全日本	優勝	(8回目)
1970	第48回全日本	優勝	(9回目)
1989	第69回全日本	優勝	(10回目)

【国際試合派遣の記録】

1932	ロスアンゼルス五輪	[付フォア]
1952	ヘルシンキ五輪	[付フォア]
1956	メルボルン五輪	[エイト]
1962	世界選手権(スイス)	
[選抜エイト3名、無フォア、スカル]		
1963	欧州選手権(デンマーク)	[エイト]
1964	東京五輪	[選抜エイトに4名]
1967	北米選手権(カナダ)	[エイト]
1971	欧州選手権(デンマーク)	[DS]
1984	全豪学生選手権	[エイト]
	ユニバーシアード(伊)	[付フォア]
	ロスアンゼルス五輪	[OBスカル]
1986	全豪学生選手権	[エイト]
1987	UCLA CREW CLASSIC	[エイト]
1988	全豪学生選手権	[エイト]
1990	豪州ヘンリーレガッタ	[エイト]
	ハドソンレガッタ	[エイト]
1991	ハドソンレガッタ	[エイト]

【早慶レガッタの記録】1905～1991(第60回)

慶應 26勝、早稲田 33勝、同着1回

【カヌー部門の記録】

1962	欧州選手権(ドイツ)	[K2]
1963	世界選手権(ユーゴ)	[K2]
1968	全日本学生選手権	総合優勝
1970	世界選手権(デンマーク)	[K1]
	全日本学生選手権	総合優勝
1971	世界選手権(ユーゴ)	[K1]
1975	世界選手権(ユーゴ)	[K1]
	全日本学生選手権	総合優勝
1976	国際レガッタ(ユーゴ)	[K1]
1978	世界選手権(ユーゴ)	[K1]
1985	世界選手権(ベルギー)	[K1]
	アジアカヌー選手権	[K4]
1987	ユニバーシアード(ユーゴ)	[K2]
	アジアカヌー選手権	[K2]
1989	アジアカヌー選手権	[K2]
1990	全日本学生選手権	総合優勝